

私の歩んだ道

—見えないから見えたもの④—

岡山県立岡山盲学校講師

竹内 昌彦



人です。どんな小さなことでも、周囲の人に優しい目と心が向けられる

私は長年の教員生活を通して、子ども達に「有難う」と言われる

経験をたくさんしてほしいと思

ました。人をいじめて面白がるよ

り、人に喜ばれた感激は大きい。

私が立ち直れたのも、肩の痛いお

ばさんの心からの「ありがとう」

です。何かいいことをした時「あ

りがとう、助かったよ」と言う

と、その子は次の日もつといい

ことをしようと考

えるのです。

何のために勉強す

るか、それは立派な

人になる為です。立

派な人とは、自分を

犠牲にしても、周囲

の人に幸せをあげる

人、これが人間として一番賢い、「人権を大事に」している人です。

その優しい心の上に学問を広げ

て、初めて皆に喜ばれる。まず、

優しい子どもを育てる。すると人

が集まってきて、その子は幸せに

なれます。意地悪な人の周囲から

人は去り、寂しゅうなります。

今、いじめが原因で子どもが自

殺したニュースを聞きます。昔の

自分を思い出して、辛かったら

う、悔しかったらと思う。同時

に、亡くなった子に鞭を打つよう

で悪いけど、何で死ぬやつがある

かと腹が立ちます。「皆、自分の

命を自分一人のものと思うとるん

じゃないか。それは大間違いだ。

みんなの親は、我が子を助ける

代わりに死ねと言われたら、いつでも死ぬ。親はそう思うてみんなを大きゅうしよる。皆は決して自分一人の命ではない。体の中に両親の命と、もつと言えば祖父母の命、ご先祖の命まで抱えて、今大きゅうなりよる。それなのに自分だけの考えで首を吊られたら、残った親は明日から何を希望に生きてええかわからんようになるぞ。

今は辛いトンネルでも必ず抜け出る！そう思うて粘る。どうしても

辛い時は逃げればいい、死なずに

待て」私はそう言うてきました。

江戸時代初期、伊勢の杉山和一

という武士は、麻疹で失明し、鍼

を学んで名人になって、5代将

軍綱吉公の病気を鍼で治しまし

た。將軍から戴いた褒美で全国に

45ヶ所の盲学校を建て、自分の弟子

を送り込

んで、全

国一斉に

盲人に按摩鍼灸

を教えた



ので、日本の社会で認められまし。世界で圧倒的に早い障がい者の自立教育です。私はモンゴルとキルギスに小さな盲学校を作り、そこで4年間で200人以上がマツサージを覚えて自立しました。資金は、講演の謝礼や拙著への募金を貯めて捻出しました。白鵬関がそのことを知り「竹内さんありがとう」と、学校を見に来てくれました。

人生は思うようにならない。行

きたい学校に行けなんだり、好き

な人にふられたり、やりたくない

仕事や係に回されたり。でも、そ

の時どう生きるか。私も目が見え

ない人生をつまらんと思つとつた

けど、ばやく前に全力でやつてみ

た時、面白うなつて生きがいが見

つかった。そこに、幸せの入口

がありました。子ども達が困つた

時、つまらん思うても頑張つて力

一杯やつてみる、必ず人は見てい

て幸せになれると言いたい。私の

ささやかなお話が、幸せの入口を

見つける一助になれば嬉しいで

す。(H27年11月号より)